

ユビキタスネット社会の進展と環境に関する調査研究会  
(第3回) 議事要旨 (案)

## 1 日時

平成17年2月21日(月) 14:00~16:00

## 2 場所

合同庁舎2号館低層棟1階 共用会議室1(総務省)

## 3 出席者

委員(敬称略、五十音順)

深海 博明(座長:慶應義塾大学 名誉教授)、井口 浩人(日本電気株式会社)、大野 栄嗣(トヨタ自動車株式会社)、御幡 徳宏(桑田委員代理、株式会社NTTデータ)、加藤 邦紘(独立行政法人情報通信研究機構)、川島 実(清水建設株式会社)、端谷 隆文(株式会社富士通研究所)、小林 英樹(株式会社東芝)、立花 智輝(日本通運株式会社)、寺尾 勇(日本アイ・ビー・エム株式会社)、西 史郎(日本電信電話株式会社)、宮崎 巖(県委員代理、イオン株式会社)、三膳 孝通(株式会社インターネットイニシアティブ)

ゲスト

中村 純、佐藤 正晃(サン・マイクロシステムズ株式会社)

総務省側

松井官房審議官、阿知波情報流通高度化推進室長、出口情報流通高度化推進室課長補佐

## 4 議事

(1) 開会

(2) 委員発表

① 「道路・交通分野におけるICT利活用」

日本自動車工業会 大野 栄嗣 氏

② 「家庭からのCO2排出抑制に向けた取り組みの紹介」

株式会社東芝 研究開発センター

主任研究員 経営変革エキスパート 小林 英樹 氏

(3) ゲスト発表

「サン・マイクロシステムズが考えるIT環境改革」

サン・マイクロシステムズ株式会社 e-Japan 営業開発本部

副本部長 中村 純 氏

(4) 評価シナリオ(案)等について

(5) 閉会

## 5 議事の概要

### (1) 委員発表

ア 大野委員より「道路・交通分野におけるICT利活用」について説明があり、これを踏まえて、以下のような意見及び質疑応答があった。(○：委員、×：発表者。以下同じ。)

- 実測燃費の推移については、一部の統計データに統計上の誤りがあるとの指摘だが、その他の各種統計の信頼性はどのようになっているのか。環境省発表の値が悪い。いくつかのデータを見ても、良くなる例、悪くなる例が存在する。
- × 自動車輸送統計のデータに誤りがあったが、が悪かった。現在は、新エネルギーバランスに統合され、誤りは是正されている数値は良くなった。
- 燃料電池車の普及は、考慮しているのか。
- × 2030年頃になれば、それなりの数が出てくると思う。2010年では、全体として微々たるものと予測。
- CO2排出源の測定が重要だと思う。車載センサーにより、車検時等にCO2排出量データを収集する方策など如何か。
- × 今の自動車は、コンピュータで燃料噴射量を積算している。CO2排出量については、積算データから正確に算出できる。
- CO2排出量は走行モードでも変わってくる。走行モードを測定するセンサーも必要と考える。
- × 燃費の評価が難しい理由に、車の性能か道路の状況か運転技術か、どこに起因しているのか判断できないことだ。原因がわからなければ対策も取りにくい。
- デジタルタコメータで、それらが解明できるのではないか。
- × デジタルタコメータは確かに有効だが、導入しているのは大手運送事業者である。大半の運送事業者は、トラック2～3台の小規模事業者である。政府はこれらの事業者に、導入を支援する施策を講じることを希望する。

イ 小林委員より「家庭からのCO2排出抑制に向けた取り組みの紹介」について説明があり、これを踏まえて、以下のような意見及び質疑応答があった。

- 製品リユースでは、消費電力の大きいものが再度、市場に流れることになる。リユース時に省エネ部品を取り付ける等、リユース前にメーカーが改良する体制を整えるのが必要。
- × リユースの対象について、製品、部品ごとに明確化する必要がある。しかし、具体的な方策については検討されていない。
- 冷蔵庫は買い換えの度に、大型化している。迅速循環による省エネ製品の普及に反しないか。
- × 迅速循環モデルでは、同規模の製品への買い換えを想定している。電力消費量の大きい、大型製品への買い換えの防止は、消費者へのインセンティブの与え方を検討すべきである。
- エコネットではマルチベンダー化だが、コントローラと家電機器のベンダーが異なると、省エネ効果が十分発揮できないから家電まで、メーカーを統一してシステムを構築すると、エコネットの機能以外の特別な機能が使えるといった問題事にはならないのか。
- × エコネットは環境負荷低減のみがを目的として始まったものではなく、い。セキュリティ、介護問題の解決といった生活の快適性を高める目的で実施してきたため、そうした問題については意識していなかった面もある。自社製品に限定した機能については、議論が必要。

### (2) ゲスト発表

中村氏より「サン・マイクロシステムズが考えるIT環境改革」について説明があり、これを踏まえて、以下のような意見及び質疑応答があった。

- シンククライアントなどのネット型技術は、アクセス回線の伝送速度が重要。どの程度の伝送速度が必要なのか。
- × 昔なら、専用のLANを構築する必要があった。今は既存のLANで十分であり、自宅からのアクセスも、下りで1Mbpsもあれば十分である。事務所間も10Mbpsで接続している。
- モバイルインフラは、今後の検討課題か。
- × 自宅は有線接続、外出先から無線アクセスを想定。
- ISPを経由する、IP接続か。
- × ISPは経由しない。VPN構成である。

(3) 評価シナリオ(案)等

事務局より「評価シナリオ(案)等について」について説明があり、これを踏まえて、以下のような意見及び質疑応答があった。また、資料に対する質問は、メールにて受け付ける旨、説明があった。

(前提条件等)

- 10システムに対象を限っているが、リサイクルは環境にやさしいシステムのため、検討しないのか。また、POSは検討しないのか。
- × POSはSCMに含まれる。リサイクルは循環社会の構築という、大きなテーマがあり、CO2削減効果に着目した本研究会の課題から見て、別のテーマとして議論するものと考えた。
- リサイクルは省資源化には資するが、エネルギー消費量削減効果は小さいということか。
- 実際にモデルに入れて算出するなら、10のシステムに限定したいということか。
- × マクロ的に評価したいため、10のシステムに限定した。
- キーになるシステムを選んだと思う。中核システムとして議論を行い、10のシステムを選定したという結論を示す必要がある。
- 調査票では廃棄物管理システムが示されているが、これを除いた理由は。
- × リサイクルと同様に、CO2削減効果が算出できないので除いた。

(電力消費量・市場規模)

- 電気通信の市場として、電気通信は入っているのか。
- × 電気通信利用料として入っている。

(個別システム)

- 効果・普及は基本と加速化が挙げられている。技術による効果と普及による効果も加えるべきでは。
- × どれだけの効果があるか、検討はしたい。
- エコドライブは、乗用車と物流が一緒になっている。
- 物流は効果が出せるが、乗用車は難しい。
- × 環境省の燃費改善5.8%は、乗用車を想定している。
- ペーパーレスオフィスには、移動の削減も含まれているのか。
- × ペーパーレスに限定している。
- オンラインショッピングの範囲は。
- × ネットショッピングは入れてある。TVショッピングは想定していない。
- 買い物交通削減によるCO2削減は入っているのか。
- × 考慮している。

(4) その他

第4回会合は3月16日を予定し、詳細については別途事務局より通知する旨説明があった。

以上